

## 省察性の基礎を育む算数授業づくり

教育学部 北山秀隆

附属小学校 松本都望

### 1. 本研究の目的と概要

本研究は、和歌山大学教育学部附属小学校の教員と、和歌山大学教育学部の教員が連携し、授業参観と研究協議を通じて、授業内容・教材開発について研究を行うことを目的としている。本年度の研究課題を“省察性の基礎を育む算数授業づくり”とし、児童が主体的に課題に取り組み、疑問・課題を持ち深めていけるような算数授業を目指している。研究代表者を教育学部の北山とし、附属小学校から松本（1年生担任）が連携し共同で研究を進めることとした。

### 2. 本研究の活動概要

#### ・附属小学校教員の実践

年間を通して、低学年期における探求力を育むために、算数科における表現力を育成しようとする取り組みを行った。1学期は、半具体物や数図ブロックを使って問題場面を表現したり、絵にかき表したりすることに取り組んだ。2学期からは、半具体物や数図ブロックの操作をもとに、図にかき表す活動に重点を置き取り組んだ。また、式と図を繋げることにも力を入れ、式や図を言葉で表現することも大切にしてきた。これにより、子どもたちは図を描くことに苦手意識をもつことなく、問題場面を図、式、言葉で表現することができた。これらの取組は、低学年期の子ども達が探求的に算数に取り組む上で大きな力になったといえる。また、探求力を育むための方策の1つである省察性を高める取組として、学習のふりかえりを書く活動にも重点を置いた。授業の中での学びの姿と、ふりかえりを照らして子どもたちをみとり、その内容を価値づけていくことで子どもたちのメタ認知力や探求力を培うことができた。自己の学びを表現し実感していくことは、探求的に学んでいく子どもたちを支えることに繋がっていたと考える。

また、夏季休業中に、本校の研究発表会（11月3日）も視野に入れ、公立学校の先生方と、本校の算数授業に関する指導案検討をおこなった。公立学校における授業実践の豊富な先生方から、知識面だけでなく経験を踏まえた多くの助言をいただき、授業の

構想を深めることができた。

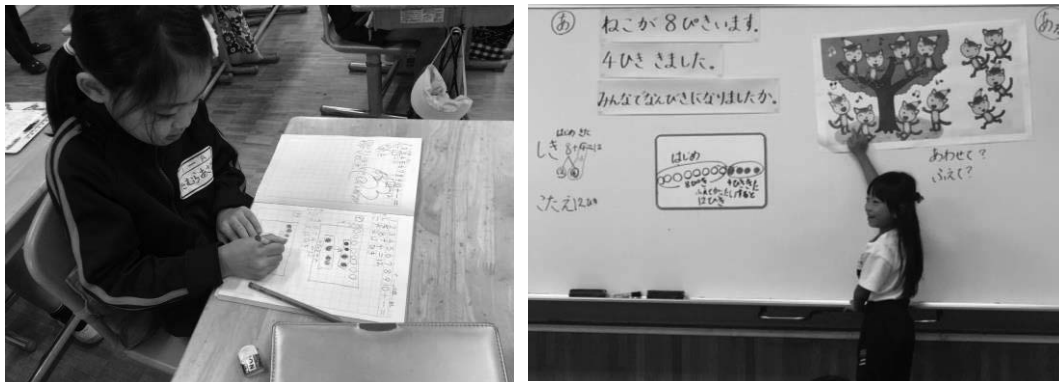


写真 附属小学校における 授業参観と協議（10月25日）「たしざん」

## 5. 成果と課題

昨年度は、大学と附属小学校が連携協力する上で、日程調整することの困難さがあり、大学教員に授業参観をしてもらったり、授業について協議したりする機会を持つことが難しいという課題が残った。しかし、今年度は10月25日（金）、本校研究発表会11月3日（日）、全国算数授業研究会和歌山大会12月26日（木）の計3回、授業参観や協議をしていただくことができた。特に、本校の研究発表会の約1週間前である10月25日（金）に授業参観をしていただき、その直後に協議ができたことは、大きな成果であり、小学校教員同士の協議では得ることのできない、数学的な視点から助言をいただけたことは、授業者の教材研究における視野を広げるものであった。

今年度は、公立学校の先生方との意見交流も夏季休業中にしかすることができなかった。今後、学部の研究代表者と共同研究者である附属小学校教員とが連絡を密に取り合い、定期的な授業参観や協議の場となるような方向を模索したい。また、その内容を踏まえ、公立学校の先生方と指導案検討を行う時間をもう少し取れるように考えたい。大学、附属小学校に加え、公立学校との連携を今後さらに強めていき、授業研究をより深いものにしていきたいと考える。